

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウコクサイイン コクサイダイガク 学校法人 国際大学								
フリガナ大学の名称	コクサイダイガクイン 国際大学大学院 Graduate School, International University of Japan								
大学の位置	新潟県南魚沼市国際町777								
大学の目的	国際社会や国際ビジネスが直面する諸問題を実践的に解決していくために必要な学術の理論と応用の研究に取り組み、その教育を通して、高度に専門的な知識と技能及び異文化に対する深い理解と共感をもったグローバル・リーダーを育成し、もって国際社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識・理解出来るグローバルな視野を有し、かつ国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部等
	国際関係学研究科 国際関係学専攻 博士後期課程 PhD Course Division of International Relations Graduate School of International Relations	3年	5人	-	15人	博士（経済学、公共経営学または国際関係学）	平成27年9月 第1年次	新潟県南魚沼市国際町777	国際関係学研究科 国際関係学専攻 修士課程
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	平成27年4月 入学定員変更予定（平成26年7月届出予定） 国際経営学研究科 国際経営学専攻修士課程〔定員増〕（15）（平成27年4月）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際関係学研究科 国際関係学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	17単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	国際関係学研究科	9	4	5	0	18	0	0
		国際関係学専攻博士後期課程	(9)	(4)	(5)	(0)	(18)	(0)	(0)
		計	9	4	5	0	18	0	0
	既設分	国際関係学研究科	9	5	5	0	19	0	36
		国際関係学専攻修士課程	(9)	(5)	(5)	(0)	(19)	(0)	(36)
		国際経営学研究科 国際経営学専攻修士課程	6	2	2	0	10	0	23
			(6)	(2)	(2)	(0)	(10)	(0)	(23)
	計	15	7	7	0	29	0	59	
		(15)	(7)	(7)	(0)	(29)	(0)	(59)	
合計	15	7	7	0	29	0	59		
	(15)	(7)	(7)	(0)	(29)	(0)	(59)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		33人		8人		41人		
			(33)		(8)		(41)		
	技術職員		2人		0人		2人		
			(2)		(0)		(2)		
	図書館専門職員		3人		0人		3人		
		(3)		(0)		(3)			
その他の職員		0人		0人		0人			
		(0)		(0)		(0)			
計		38人		8人		46人			
		(38)		(8)		(46)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	400,046.2㎡	0㎡	0㎡	400,046.2㎡					
	運 動 場 用 地	111,959.0㎡	0㎡	0㎡	111,959.0㎡					
	小 計	512,005.2㎡	0㎡	0㎡	512,005.2㎡					
	そ の 他	106,256.0㎡	0㎡	0㎡	106,256.0㎡					
合 計	618,261.2㎡	0㎡	0㎡	618,261.2㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		11,546.4㎡ (11,546.4㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	11,546.4㎡ (11,546.4㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	15室	3室	0室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際関係学研究科国際関係学専攻博士後期課程		20 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	国際関係学研究科 国際関係学専攻 博士後期課程	93,330 [72,465] (93,330 [72,465])	279 [229] (279 [229])	33,144[33,144] (33,144 [33,144])	14,300 (14,300)	9 (9)	0 (0)			
	計	93,330 [72,365] (93,630 [72,365])	279 [229] (279 [229])	33,144[33,144] (33,144 [33,144])	14,300 (14,300)	9 (9)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		3,890.6㎡		80	154,639					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		1,685.2㎡		該当なし						
経 費 積 累 及 び 維 持 方 法 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費、図書購入費、設備購入費については大学全体 図書費は電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	-	-	-	
		共同研究費等		1,800千円	1,800千円	1,800千円	-	-	-	
		図書購入費	41,578千円	41,578千円	41,578千円	41,578千円	-	-	-	
		設備購入費	26,108千円	14,513千円	9,636千円	9,636千円	-	-	-	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,650千円	1,350千円	1,350千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、補助金収入等を充当							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	国際大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	国際関係学研究科 国際関係学専攻修士課程	2 または 1	125	-	250	修士（国際関係学、国際平和学、国際開発学、公共経営学、経済学または公共政策）	0.84	昭和57年	新潟県南魚沼市国際町777番地	
国際経営学研究科 国際経営学専攻修士課程	2 または 1	75	-	150	修士（経営学またはEビジネス経営学）	0.84	昭和63年	新潟県南魚沼市国際町777番地		
附 属 施 設 の 概 要		<p>名称：松下図書情報センター 設置年月：昭和63年6月 目的：教育研究活動に必要な情報・資料を収集・整理して提供すると共に、それに必要な環境を整備して利用者への多様な支援活動を展開することにより、本学における教育研究水準の向上に寄与すること</p> <p>名称：国際大学研究所 設置年月：平成9年4月 目的：現代日本及び現代国際社会が直面しているグローバルな諸問題を調査研究し、その解決に寄与する提言を行うとともに本学の教育プログラムの質的向上に資すること</p>								

<p>名称：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 設置年月：平成3年7月 目的：智業・企業協働の理念に立って、内外の研究者や企業と協働しつつ、コンピュータ・ネットワークとその技術を活用して、情報技術の進展する中での現代日本及び地球社会の諸問題の学際的研究、政策提言、研究成果の普及に従事する</p> <p>名称：言語教育研究センター 設置年月：平成26年4月 目的：本学の教育理念及び教育目標を実現するため、更に世界で活躍を希求する者に対し質の高い言語教育、研究を行うことにより本学の発展に寄与すること</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人国際大学 設置認可等に係る組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
国際大学大学院				→	国際大学大学院				
国際関係学研究科 国際関係学専攻 (M)	125	-	250	→	国際関係学研究科 国際関係学専攻 (M)	125	-	250	
					国際関係学専攻 (D)	<u>5</u>	-	<u>15</u>	専攻の課程の変更 (認可申請)
国際経営学研究科 国際経営学専攻 (M)	75	-	150	→	国際経営学研究科 国際経営学専攻 (M)	<u>90</u>	-	<u>180</u>	定員変更
計	200	-	400		計	<u>220</u>	-	<u>445</u>	

教育課程等の概要														
(国際関係学研究科国際関係学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通選択必修科目	経済学クラスター ミクロ経済学特論	1②		2		○					1			
	マクロ経済学特論	1①		2		○				1				
	計量経済学特論	1③		2		○				1				
	公共経営学クラスター 公共経営学特論	1①		2		○				1				
	公共政策プロセス特論	1②		2		○			1					
	公共政策モデリング特論	1③		2		○				1				
	国際関係学クラスター 国際政治学特論	1①		2		○					1			
	国際政治経済学特論	1②		2		○			1					
	人権とグローバル・ジャスティス特論	1③		2		○				1				
小計（9科目）	—	0	18	0	—	—	—	2	4	2	0	0		
研究指導	博士論文特別演習Ⅰ	1通	3				○		9	4	5			
	博士論文特別演習Ⅱ	2通	3				○		9	4	5			
	博士論文特別演習Ⅲ	3通	3				○		9	4	5			
	小計（3科目）	—	9	0	0	—	—	—	9	4	5	0	0	
合計（12科目）		—	9	18	0	—	—	—	9	4	5	0	0	
学位又は称号	博士（経済学）、 博士（公共経営学）、 博士（国際関係学）		学位又は学科の分野			法学関係、経済学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p><経済学クラスター> 博士後期課程に3年以上在籍し、必要な研究指導を受けた上、「博士論文特別演習Ⅰ～Ⅲ」（9単位）及び「共通選択必修科目から経済学クラスター必修3科目6単位（ミクロ経済学特論、マクロ経済学特論、計量経済学特論）を含む4科目8単位」、計17単位を履修するとともに、博士論文について本研究科が行う審査及び試験に合格すること。</p> <p><公共経営学クラスター> 博士後期課程に3年以上在籍し、必要な研究指導を受けた上、「博士論文特別演習Ⅰ～Ⅲ」（9単位）及び「共通選択必修科目から公共経営学クラスター必修3科目6単位（公共経営学特論、公共政策プロセス特論、公共政策モデリング特論）を含む4科目8単位」、計17単位を履修するとともに、博士論文について本研究科が行う審査及び試験に合格すること。</p> <p><国際関係学クラスター> 博士後期課程に3年以上在籍し、必要な研究指導を受けた上、「博士論文特別演習Ⅰ～Ⅲ」（9単位）及び「共通選択必修科目から国際関係学クラスター必修3科目6単位（国際政治学特論、国際政治経済学特論、人権とグローバル・ジャスティス特論）を含む4科目8単位」、計17単位を履修するとともに、博士論文について本研究科が行う審査及び試験に合格すること。</p>							1学年の学期区分			3学期				
							1学期の授業期間			10週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要

（国際関係学研究科国際関係学専攻 博士後期課程）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 選択 必修 科目	ミクロ経済学特論	<p>本コースは博士後期課程1年生向けの経済学クラスター必修科目であり、ミクロ経済学の理論と応用を講義する。経済主体の意思決定と相互作用を記述する理論モデルを理解することを目的に、消費者および生産者理論、一般均衡分析、ゲーム理論、非対称情報および外部性と、これらに関する応用例等をカバーする。本コースで取り上げる経済理論モデルは、受講生が今後取り組む応用経済研究や公共政策研究の基礎となるものである。受講生は、修士レベルの数学およびミクロ経済学の知識があることを前提とし、本コースでは、博士論文執筆に必要となるより高度なミクロ経済理論を講義する。</p>	
	マクロ経済学特論	<p>This course provides PhD students with the necessary knowledge and quantitative analysis skills of the modern business cycle theory and the stabilizing monetary policy. Our analysis is based upon the dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) framework. This framework, built on the micro-foundations, has been increasingly adopted to study business cycle fluctuations by not only academia but also policymakers (research institution). It is important to have both broad and deep understanding of this approach.</p> <p>We start by building the basic concept through a standard real business cycle (RBC) model. That is, how the productivity shocks generate persistent economic fluctuations by influencing firms and consumers' decision-making. The quantitative effects will be examined through calibration. Next, we introduce the nominal rigidities and market frictions into the baseline model to illustrate the effect of monetary policy, and to explain how the economy can be corrected from inefficient to efficient fluctuations through the stabilizing monetary policy. We also demonstrate the level of welfare improvement achieved by various kinds of (realistic) monetary policy (the Taylor style rules).</p> <p>Lastly, we illustrate some recent developments in this field: (1) the new open economy model (NOEM), by which researchers study the policy implications for those countries largely influenced by global economy. (2) the Bayesian estimation of the DSGE model, by which researchers examine the influences of various structure shocks and the role of markets frictions in a economy.</p> <p>（和訳）</p> <p>このコースでは、博士後期課程学生を対象に、景気循環理論や安定的な金融政策の研究に必要な専門知識および数量分析手法を提供する。分析は動学的一般均衡（DSGE）フレームワークに基づき行う。ミクロ的基礎づけに基づくこのフレームワークによる景気変動の研究は、研究者のみならず、政策立案者（研究機関）においても急速に広まっており、このアプローチの理解は重要である。</p>	

		<p>授業では、まず、リアルビジネスサイクル (RBC) モデルを用い、景気循環、即ち、生産性ショックがいかに企業や消費者の意思決定に影響を与えて持続的な経済変動を発生させるのかに関する基礎的概念を構築する。数量的な効果は、キャリブレーションを通して検討する。次に、ベースラインモデルに名目硬直性と市場の摩擦を導入し、金融政策がどのようにして経済の非効率的変動を効率的変動に修正することができるのかを説明する。また、実際の様々な金融政策が達成する経済的厚生の上昇レベルを検証する (テイラールール)。</p> <p>加えて、次のようなマクロ経済学研究の最新の成果・発展を紹介する。(1) 新しい開放経済モデル (NOEM) によるグローバル経済の大きな影響下にある国々の政策的含意の研究 (2) DSGE モデルのベイズ推定によるさまざまな構造ショックの影響と経済の市場摩擦に関する研究</p>	
	計量経済学特論	<p>本授業は、博士後期課程レベルの計量経済学の理論と応用をカバーする。講義内容は、経済統計理論の理解により多くの比重を置くため、修士レベルの経済数学、計量経済学、マクロ・ミクロ経済学の知識があることを前提とする。本コースは、まず、計量モデルのより厳密な推定手法 (不偏・一致性の証明及び漸近理論の証明及び応用など) をカバーする。その後、パネルデータ分析及び Limited dependent and qualitative model (プロビット、ロジット、トービット、ヘックマン2段階推定法など) をどのように経済学の諸問題に応用するのかを説明する。当コースを履修することにより、査読付学術雑誌に投稿できるレベルの博士論文を作成するために必要不可欠な計量経済学の高度な知識を修得することができる。</p>	
公共経営学クラスター	公共経営学特論	<p>This course provides an introduction to research and theories in public management and develops managerial perspectives, knowledge, skills, and professional standards for future public managers. Specifically this course addresses distinctive features of the public sector, administrative environments, organizational structure and process (bureaucracy), communications, conflict management, public service motivation, managerial leadership, administrative reform and reinvention, and performance management.</p> <p>(和訳)</p> <p>公共経営の研究成果や理論を紹介しながら、公共経営部門の管理者・リーダーに必要な経営の視点、知識、スキルなどの専門的能力を開発していく。公共部門に顕著な特徴、管理運営環境、組織構造とプロセス (官僚制)、コミュニケーション、トラブル管理、公共サービスのモチベーション、経営リーダーシップ、行政改革および業績管理などを扱う。</p>	
	公共政策プロセス特論	<p>This course aims to introduce students the development of the policy sciences, focusing on theoretical efforts over the last five decades. Over the period, the field of policy sciences has expanded to cover policy process theories, policy analysis, and policy evaluation, each of which has engaged practical issues of the time. Reading and discussing key theoretical pieces, the students will be able to appreciate the policy sciences as a concrete field of study with substantial achievements in explicating the complexity of the policy</p>	

	<p>development and changes. At the same time, the students will critically embrace the intellectual challenges the field has been faced with. Most of all, the students will develop a balanced understanding of how the policy sciences as a field of study has contributed to the betterment of democratic governance.</p> <p>(和訳)</p> <p>このコースは、政策科学の発展を学生に紹介し、特に過去五十年にわたる理論的な取り組みに焦点をあてる。政策科学の分野は、その時代時代の実際の問題に応じて、時代の現実的な諸課題を扱う政策過程論、政策分析、政策評価をカバーするものとして拡大してきた。理論に関する主要文献を講読・議論し、政策の展開や変化の複雑さを解明してきた政策科学の成果や知的チャレンジを評価、理解し、自らのものとして身につける。何より、研究分野としての政策科学が民主的ガバナンスの改善に貢献してきたことを理解する。</p>	
<p>公共政策モデリング特論</p>	<p>This policy analysis course introduces the cost benefit analysis (CBA) concept and then explores mathematical and statistical methods such as linear programming (LP), decision analysis, Markov model, queueing theory, and systems thinking.</p> <p>This course helps doctoral students improve their abilities to identify and analyze policy problems correctly; formulate policy problems properly; and interpret results professionally. Specifically, students will be able to (1) understand basics of policy analysis and cost benefit analysis (CBA), (2) understand ideas and natures of policy modeling, (3) express their ideas (mental models) using causal diagrams, (4) understand key concepts and techniques of individual modeling methods, (5) formulate policy problems properly given their specific situations, (6) solve policy problems using computer software packages like Excel and Stata, and (7) interpret and present the results correctly and professionally in order to successfully communicate with audience (senior managers and citizens) who do not know modeling and mathematics sufficiently.</p> <p>(和訳)</p> <p>この政策分析コースでは、費用便益分析 (CBA) の概念の導入に続き、線形計画 (LP)、意思決定分析、マルコフモデル、待ち行列理論、およびシステム思考などの数学的および統計的手法を学び、博士後期課程の学生が、公共政策の課題を特定、分析、定式化、解釈していくために必要な高度な能力を身につける。具体的には、次のような能力を涵養する。(1)政策分析の基礎と費用便益分析(CBA)の理解 (2) 政策モデルの概念・性質の理解 (3) 因果ダイアグラムを使用した表現 (メンタルモデル) (4) モデリング手法の主要概念とテクニックの理解 (5) 特定の政策課題の定式化 (6) ソフトウェアを用いた政策課題分析 (7) 上級管理職者や市民など、モデリングや数学的アプローチの専門家でない層にも説明可能な分析結果解釈。</p>	

国際関係学クラスター	国際政治学特論	<p>本コースは国際政治の高度な理論を学び、様々なケースをもとに、諸理論の批判的検討を行う。まずは基本理論の理解の確認を行い、諸分析レベルにおける高度な概念や理論、政策理論を学習する。その際には特に現代の諸問題、特にテロリズム、核拡散問題や環境問題などのケーススタディを通じて諸理論の政策面での批判的検討も重ねる。最終的には学生が現代国際政治の問題を的確にかつ深く分析し、有益な政策提言を出来るようになることを目標とする。</p>	
	国際政治経済学特論	<p>As we live in a globalizing and increasingly interdependent world, understanding of the roles and behavior of markets, states and institutions, and civil society is vitally important. It is believed that International Political Economy (IPE) provides a solid foundation for those who are attempting to comprehend the above mentioned roles and behavior, and key regional and global issues that will affect everyday life of individuals. The IPE is an interdisciplinary academic field within international relations which draws inputs from international politics, international economics, cultural studies, and history. From a theoretical standpoint, IPE examines the interactions and tensions within four structures: (a) Production and Trade, (b) Finance and Monetary, (c) Knowledge and Technology, and (d) Security. These structures or frameworks are the underlying foundation of the IPE.</p> <p>This course aims to familiarize students with the theories and dynamic linkages among markets, states and institutions, and civil society in the regional and global context. The course covers major theories, concepts and issues of IPE including, international institutions, international trade, international finance, international development, and consequences and controversies of globalization.</p> <p>(和訳)</p> <p>我々はグローバル化が進み相互依存性の高まる現代の世界に生きる中、マーケット、国家、組織機構、市民社会の役割と行動を理解することの重要性は益々増している。国際政治経済学は、我々の日々の生活に影響を与えるような地域的、グローバル的な諸問題のキーとなる問題や、上記の役割や行動の関係を理解する上で、基本的な基礎を与える研究分野である。国際政治経済学は、国際政治学、国際経済学、文化・史学の成果を取り込んでいる国際関係学の中の学際的分野である。このコースでは、国際政治経済学の根底をなす4つの構造・枠組み、即ち(a)生産と貿易(b)金融と財政(c)知識と技術(d)安全保障、の間インタラクションと均衡を、理論的観点から検証する。</p> <p>このコースは、国際政治経済学の理論や、市場・国家・機構・及び制度と市民社会のダイナミックな関係を地域的かつグローバルな文脈から理解することを目的とする。国際機構、国際貿易、国際金融、国際開発など国際政治経済学に関する重要な理論、概念、課題を採り上げ、グローバリゼーションの帰結や議論を考察する。</p>	
	人権とグローバル・ジャスティス特論	<p>本コースは国際関係学の博士後期課程一年生に、人権とグローバル・ジャスティスの知識を提供する。人権は日増しに国際的規範になりつつある一方で、多様な人々と国々が増々グローバル化される世界において交流する</p>	

		<p>につれて、議論の対象ともなっている。グローバル・ジャスティスは人権を履行するための1つのメカニズムである。本コースでは、現在の人権およびグローバル・ジャスティスの形態の正しさを当然視するのではなく、それらの形態に含まれる諸問題を吟味することで、人権とグローバル・ジャスティスのより深い理解を得ることを目指す。</p>	
<p>研究指導科目</p>	<p>博士論文特別演習 I</p>	<p>(概要) 経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践・指導を行い、博士論文指導を行う。 博士論文特別演習 I では、先行研究の調査を行ったうえで研究題材を特定化し、研究計画書の作成を中心に指導する。</p> <p>(経済学クラスター)</p> <p>(1 柿中 真) 経済理論及び計量経済学の手法を用いて国際経済の課題の研究指導を行う。 まず、現実社会における重要な経済問題とその解決策を熟慮し、それと同時に先行研究の調査を予備的に実施することによって、実行可能性と新規性のある研究題材を特定化する。研究題材を特定化した後、博士課程修了までの具体的な研究計画書を作成する。博士学位論文は学術論文3編から構成されることを基本として、研究計画が立てられる。次に、研究計画書に沿って、当該研究題材に関する先行研究の調査や研究資料及びデータの収集を指導する。その際に、博士論文作成に必要不可欠である専門的な経済学の知識及びデータ分析技能の習得を促す指導を行う。</p> <p>(2 渡辺 慎一) 経済理論及び計量経済学の手法を用いて経済発展に伴う諸課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習 I では、まず、現実社会における重要な経済問題とその解決策を熟慮し、それと同時に先行研究の調査を予備的に実施することによって、実行可能性と新規性のある研究題材を特定化する。研究題材を特定化した後、博士課程修了までの具体的な研究計画書を作成する。博士学位論文は学術論文3編から構成されることを基本として、研究計画が立てられる。次に、研究計画書に沿って、当該研究題材に関する先行研究の調査や研究資料及びデータの収集を指導する。その際に、博士論文作成に必要不可欠である専門的な経済学の知識及びデータ分析技能の習得を促す指導を行う。</p> <p>(4 中村 治) 経済理論及び計量モデル分析、動学的シナリオ分析、等の計量経済学の手法を用いて、経済成長ないし経済発展、および国際貿易・投資、等の課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習 I において、まず、いくつかの研究トピックスに関し実体経済に存在するさまざまな経済問題を過去の先行研究を学びながら熟慮し、特定化する。次に、博士論文の研究課題に関する研究計画を作成する。その際、博士論文は基本的に3編以上の研究論文分から構成され、また、その1編は査読付ジ</p>	

	<p>ジャーナルに投稿、受理されることが条件になることを考慮する。最後に、研究プランに基づき、先行研究のレビューおよびデータベースの開発を行うが、それと同時に研究に用いる既存の経済理論の習得とその進化、さらに計量モデル分析および動学的シナリオ分析の手法、等の計量分析ツールも学ぶことになり、これらの指導を行う。</p> <p>(7 加藤 竜太) 財政学に関係のある分野の研究指導を行う。 ここで言う財政学に関係のある分野とは公共経済学における一般的なトピック、特に長期的な財政政策や財政赤字、社会保障や人口高齢化と言ったマクロ動学モデルで扱う内容を含んでいる。また、静学的、動学的な数値計算可能な一般均衡モデルも含まれている。 学生はまず博士論文に望ましい研究トピックの選定を指導教員と議論し、その後、その関連分野の十分な先行研究の理解が求められる。博士論文執筆にはそのオリジナリティと既存研究への十分な貢献が要求されるので、極めて上級な研究手法の習得も要求される。博士論文は出版可能なレベルの3つの独立の論文で構成されることも可能である。</p> <p>(11 高橋 新吾) 計量経済学の手法を用いて労働経済学・人事制度の経済学の分野での実証分析の指導を行う。 博士論文特別演習 I では、労働経済学における重要課題を理解し、先行研究の調査を予備的に実施することによって、実行可能性と新規性のある研究題材を特定化する。研究題材を特定化した後、博士課程修了までの具体的な研究計画書を作成する。博士学位論文は学術論文 3 篇から構成されることを基本として、研究計画が立てられる。次に、研究計画書に沿って、当該研究題材に関する先行研究の調査や研究資料及びデータの収集を指導する。その際に、博士論文作成に必要な不可欠である専門的な経済学の知識及びデータ分析技能の習得を促す指導を行う。</p> <p>(14 LIN CHING YANG) This course is designed for PhD. Students planning to conduct research in the field of macroeconomics. To this end, the course provides the required knowledge and technique for the beginning stage of conducting academic research. These include the literature review, data collecting and the knowledge of computational language and application software. In addition, individual meetings with each student to understand their research direction and interest are also necessary. Group discussions will also be held. Several assignments will also be given. These assignments are designed to help student formulate their research idea and practice the knowledge they learn in the class.</p> <p>(和訳) マクロ経済学に関連する研究課題の研究指導を行う。 その指導過程において、先行研究調査、データ収集、コンピュータ言語の知識、応用ソフトウェアなど、博士後期課程の研究活動開始段階に必要な知識とテクニックを教授する。研究の方向性と関心について個々の学生と議論を重ねるとともに、学生同士のディスカッションも</p>	
--	---	--

		<p>行う。研究課題に対するアイデアの形成や専門知識習得のため、本演習において適切に課題を与えながら指導を行う。</p> <p>(17 KUO CHUN-HUNG)</p> <p>This course is designed to prepare students for writing Ph.D thesis in the fields of macroeconomics, monetary economics, using time series and macro-econometric methods.</p> <p>The main goal of this course is to help students form their own research topics. To achieve this goal, the instructor will first assign several academic papers in the class. Each student is required to discuss those papers with other students and the instructor. After reviewing the literature, students start to choose their own research topics. The instructor will discuss with students about the potentials of the proposed research topics. Each student has to form three research topics, since a Ph.D. dissertation is composed of three essays. For each topic, students write a solid and well-explained research proposal or plan. After writing proposals, students start to collect the needed dataset for their research.</p> <p>(和訳)</p> <p>マクロ経済学、金融論分野における研究課題について、時系列分析やマクロ計量モデルを用いて研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I では、研究トピックの特定と研究計画の形成に主題を置く。先ず関連する文献・学術論文を与え、議論を行う。先行文献をレビューし、研究トピックの特定に向け、提案されたトピックについて、その可能性等を議論しながら指導する。博士論文は3編の研究論文から構成されることを基本とすることから、3つの研究トピックを決定し、それぞれについて、十分な研究計画書を作成できるように指導する。研究計画作成後に、必要なデータ収集の指導を行う。</p> <p>(18 陣内 悠介)</p> <p>経済理論および計量経済学の手法を用いて開発経済学分野（教育、医療、家計等）の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I では、学生の職務経験や問題意識等をもとに複数の研究テーマをリストアップする。各テーマの先行研究を調査し、学術論文3編から構成される博士学位論文を完成させるまでの計画書を作成する。その後、計画に沿ってデータ収集および計量経済学モデルの比較検討を行い、当該期間中に1編の論文を執筆することを目指す。</p> <p>(20 伊藤 晴祥)</p> <p>実証分析あるいはファイナンス理論を利用したコーポレートファイナンス、リスクマネジメント、あるいはリアルオプションに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>博士論文では、データを利用して仮説検定を行う、実証研究であっても、あるいは、理論モデルを構築し実際の問題を解決するような研究であってもよい。考えられる研究課題としては、M&A 戦略、発展途上国への進出戦略、デリバティブを利用したリスクマネジメント手法が企業価値へ与える影響の検証、非完備市場下でのデリバティブ評価などが上げられる。</p> <p>まず、トップジャーナルに出版可能な研究課題を見なければならぬ。そのためには、新聞記事、専門雑</p>	
--	--	---	--

		<p>誌、あるいは、実務家との面談から、実経済で課題を発見分析する方法、あるいは、多くの優れた学術論文を読み、学術的に重要であるが、今までに解決されていない課題を見つける方法がある。よい研究課題は、実務的にも重要でありかつ、新規性がなければならない。第2に、当該研究課題の実現可能性を確かめるために先験的な研究を実行する。そして、慎重に先行研究調査を行い、研究課題の重要性及び新規性を確認し、先験的な研究から実現可能性を確認した後に、データ収集及び、データの分析を開始する。実証研究あるいは、理論研究に基づく博士論文の執筆に必要な経済学の理論や実証研究の方法等は、適宜、指導教員により指導される。</p> <p>(公共経営学クラスター)</p> <p>(3 RAJASEKERA JAY RANJITH)</p> <p>This course is designed to prepare for a Ph.D. dissertation in the field of Public Management with a special emphasis on IT/ICT Management.</p> <p>In the Advanced Seminar I, students will learn necessary research methodology in IT/ICT Management, how to do secondary and primary research, for theoretical and empirical analysis for their Ph.D. dissertation. While thoroughly learning the methodology, several research topics will be specified with the careful consideration of real world management issues related to IT/ICT Management and previous literature. Students are then required to write a solid research proposal and plan related to the specified research topics. A Ph.D. dissertation is typically composed of three research essays. Finally, careful literature reviews and secondary/primary research will be conducted following the research plan.</p> <p>(和訳)</p> <p>公共経営の分野において、特に情報技術/情報コミュニケーション技術のマネジメント(IT/ITC マネジメント)に関連する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I では、理論的・実証的研究に必要な IT/ITC マネジメントに関するリサーチの方法論、プライマリ/セカンダリ・リサーチの方法を指導する。リサーチ方法を修得しながら、IT/ITC マネジメントに関する現実社会の課題や先行研究を踏まえて研究課題を特定し、研究計画を策定していく。研究計画に従い、先行研究調査やプライマリ/セカンダリ・リサーチ実施のための指導を行う。</p> <p>(9 KIM JUNG BU)</p> <p>This course aims to prepare Ph.D. students for writing a dissertation in the field of public policy.</p> <p>First, one or more research questions will be specified based on both an in-depth understanding of specific policy phenomenon and a focused review of the relevant literature. Second, research to address such specified questions will be designed, which includes key problems, questions, data, methods, and preliminary literature survey. Finally, the research design will be executed as for data collection, literature review and further detailing on methods.</p> <p>(和訳)</p>	
--	--	---	--

		<p>公共政策に関連する分野の博士論文の指導を行う。まず、関連する政策的現象を深く理解し、関連文献を精読したうえで研究課題を特定する。次に、課題に向けたキーとなる問題、クエスチョン、データ、手法、および予備的文献調査を含む研究計画をデザインする。最後に、データ収集、文献調査と手法により研究計画を遂行していく。</p> <p>(10 PARK HUN MYOUNG) This course is to help doctoral students identify relevant management and/or policy problem in the public sector and then describe it with a focus on students' research question; survey existing literature on the management and policy problem; investigate potential theories and/or methods to be employed for the research; refine research question(s) by considering the problem, literature, and theory/method together; and determine scope of the research.</p> <p>(和訳) 公共部門の経営管理、政策課題に関連する博士論文の指導を行う。 特別演習 I では、公共部門の経営管理、政策課題を特定し、研究課題として適切なリサーチクエスチョンをたて、先行研究を調査理解し、研究の遂行に必要な理論や手法を探索しながら、研究課題を洗練・深化させていく。</p> <p>(19 山田 恭平) 公共政策学と政治学の理論および手法を用いて、公共政策の課題の研究指導を行う。 特別演習 I では、まず、現実社会における公共政策に関する問題とその解決策を熟慮し、それと同時に先行研究の調査を予備的に実施することによって、実行可能性と新規性のある研究題材を特定化する。研究題材を特定化した後、博士課程修了までの具体的な研究計画書を作成する。博士学位論文は学術論文3編から構成されることを基本として、研究計画が立てられる。次に、研究計画書に沿って、当該研究題材に関する先行研究の調査や研究資料及びデータの収集を指導する。その際に、博士論文作成に必要不可欠である専門的な公共政策学および政治学の知識及びデータ分析技能の習得を促す指導を行う。</p> <p>(国際関係学クラスター)</p> <p>(5 信田 智人) 本演習は国際関係論の博士論文の準備のために研究指導を行うことを目的としている。 博士論文特別演習 I では、論文の対象となるトピックとその分析の枠組みを選択する。その選択のためには、多くの関連する既存研究を選び、注意深く読む必要がある。次に、既存研究のレビューを踏まえて、博士論文のアウトラインを構築する。最後に、選択したトピックを自らが選んだ分析の枠組みを使って分析し、博士論文を完成していけるように指導を行う。</p> <p>(6 COORAY NAWALAGE SENEVIRATNE) Advanced Seminars are generally designed to provide doctoral candidates who are enrolled in International Relations cluster or program with rigorous and broad training to acquire</p>	
--	--	--	--

		<p>necessary knowledge and skills in International Political Economy (IPE). IPE covers the political perspectives of international development, trade, technology and security.</p> <p>During or at the end of Advanced Seminars, students will be able to strengthen their ability or capacity: (1) to identify critical problems and issues relating to the subject of proposed study which may be associated with socio-economic development of their own country; (2) to analyse the identified problems or issues systematically in appropriate theoretical frameworks with sufficient empirical evidence; (3) to evaluate and design alternative solution or policies under various political, social-economic and cultural conditions; and (4) to propose appropriate and effective policies to overcome the identified problems or issues.</p> <p>The specific learning objectives of the Advanced Seminar I are: (1) to identify research questions (topic) to write a thesis of acceptable quality; (2) to acquire the knowledge and skills to analyze various research questions; (3) to provide conducive academic environment in which students can learn from the supervisor and from other students, if any, in the same advanced seminar; and (4) to help finalize the thesis topic and identify proper literature.</p> <p>(和訳)</p> <p>博士論文特別演習 I では国際関係学クラスターに属している学生に国際政治経済学の分野で必要とされる知識やスキルを提供する。国際関係学、特に国際開発、貿易、技術、セキュリティなどの政治的パースペクティブを扱う国際政治経済学に関連する研究課題の指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I ～IIIを通じ次の狙いのもとに指導を行う。(1)自国の社会経済発展などの研究計画に関連する諸問題・課題を特定化する (2)特定化された諸問題を実証データを用いて適切な理論的フレームワークにより分析する (3)様々な社会経済・文化的条件の下で解決方法や政策を設計・評価する (4)効果的な政策提言を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I の狙いは次のとおりである。(1)研究課題を特定化し、(2)様々な研究課題の分析に必要な知識とスキルを身に着け、(3)演習では指導教員から、及び学生間で学ぶ研究環境を創出し、(4)学位論文課題を決定し、文献・資料を特定する。</p> <p>(8 MAUNG AUNG MYOE)</p> <p>This course is designed to prepare for a PhD thesis in the field of International Relations by using IR theories and conceptual frameworks.</p> <p>First, in order to specify and finalize the thesis topic, several possible research topics will be explored through the careful consideration of supervision availability and existing literature. Second, students are required to write a solid research proposal and plan related to the specified research topic. At this stage, the candidate must defend his/her topic in order for him/her to pursue the topic. Finally, careful literature reviews and data collection will be conducted following the research plan. If field work is necessary, he/she will be required to do so.</p> <p>(和訳)</p> <p>国際関係学に関する研究課題について、国際関係理論や概念的フレームワークを用いて研究指導を行う。</p>	
--	--	---	--

		<p>まず研究課題を特定するため、先行研究を慎重に吟味し、いくつかの課題の提案に至るように指導する。課題の特定の後には、研究計画の作成および発表に向けて指導を行い、当該課題で学位論文作成を進めて行けるかどうか審査される。研究計画の作成後は、先行研究調査、データ収集、必要に応じて行うフィールドワークを指導する。</p> <p>(12 佐治 幹英)</p> <p>国際関係学の分野において政治理論の諸問題を研究題材としている学生を対象に研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 I では、まず、政治理論が扱う諸問題と先行研究を熟慮しつつ、研究題材を特定化する。第二に、研究題材を特定化した後、博士課程修了までの具体的な研究計画書を作成する。博士学位論文は複数の章から構成されうち幾つかは査読付学術誌論文となることを基本として、研究計画が立てられる。最後に、研究計画書に沿って、当該研究題材に関する先行研究の調査および関連する哲学的テキストの精読を指導する。その際に、政治理論分野における博士論文作成に必要不可欠である哲学的な議論を構築する方法の習得を促す指導を行う。</p> <p>(16 熊谷 奈緒子)</p> <p>国際関係学の中でも特に安全保障と外交に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行うことを目的としている。</p> <p>博士論文特別演習 I では、学生の学問的関心事項から研究課題 (Research Question) を引き出すためのガイダンスと研究のために必要なスキルのガイダンスを行う。前者においては研究題材を特定化し、研究計画書の作成を中心に指導する。また必要に応じて理論や概念の理解を深めるための討論を中心とした指導を行う。後者は特に先行研究の調査の仕方と研究方法 (インタビューやサーベイの方法など) についての学習を行う。</p>	
博士論文特別演習 II		<p>(概要)</p> <p>経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 II では、研究計画書に沿って論文執筆を指導し、基本的に 1 編以上の研究論文を仕上げることを目指す。</p> <p>(経済学クラスター)</p> <p>(1 柿中 真)</p> <p>経済理論及び計量経済学の手法を用いて国際経済の課題の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習 II では、まず、同演習 I で実施された先行研究の調査を基に、可能な限り経済モデルの構築・理論的考察を行い、経済学的な政策含意の導出を理論面から実施する。次に、理論経済モデル分析を基に、実証モデルの構築及び実証分析のための計量経済学的分析手法の特定化を行う。収集されたデータを用いて実証分析に取り組み、分析結果に対する経済学的な政策含意の導出を実証面から試みる。特に、理論面及び実証面からの経済学的考察を重視した指導を行う。博士論文特別演習 II では、少なくとも 1 編の研究論文が査読付学術誌</p>	

		<p>に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(2 渡辺 慎一) 経済理論及び計量経済学の手法を用いて経済発展に伴う諸課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、まず、同演習Ⅰで実施された先行研究の調査を基に、可能な限り経済モデルの構築・理論的考察を行い、経済学的な政策含意の導出を理論面から実施する。次に、理論経済モデル分析を基に、実証モデルの構築及び実証分析のための計量経済学的分析手法の特定化を行う。収集されたデータを用いて実証分析に取り組み、分析結果に対する経済学的な政策含意の導出を実証面から試みる。特に、理論面及び実証面からの経済学的考察を重視した指導を行う。博士論文特別演習Ⅱでは、少なくとも1編の研究論文が査読付学術誌に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(4 中村 治) 経済理論及び計量モデル分析、動学的シナリオ分析、等の計量経済学の手法を用いて、経済成長ないし経済発展、および国際貿易・投資、等の課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、上述の経済学分野の博士論文の研究指導を行う。学生は、前年度に行った研究プランにそって研究を行い、重要な論文の章を完成させる。この中で、まず、研究論題に関連する経済理論をベースに分析用モデルを特定化し、また、いくつかの経済的および政策的含意も考慮することが重要である。次に、理論モデルのフレームワークをベースに実証分析を行う。その中で、経済理論の修正、深化も行うことが博士論文においては重要で、それは実体経済をより説明しうる理論の発展という意味でも重要となる。最後に、博士論文の条件となる、国際的な査読付論文に投稿、受理されなければならないという条件を満たすために、論文を1ないし2本完成させ、査読付ジャーナルへ投稿する。</p> <p>(7 加藤 竜太) 財政学に関係のある分野の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅰの成果を受けて、同演習Ⅱでは該当分野の既存研究を拡張する。具体的には博士論文を構成するいくつかの章、あるいは独立の研究論文の執筆を開始し、さらにそれらを学術雑誌に投稿できるまで論文の質を高めることが要求される。</p> <p>(11 高橋 新吾) 経済理論及び計量経済学の手法を用いて労働経済学・人事制度の経済学の課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、まず、同演習Ⅰで実施された先行研究の調査を基に、論文の課題の特定、使用データの決定、及び推定を行う。博士論文特別演習Ⅱでは、少なくとも1編の研究論文が査読付学術誌に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(14 LIN CHING YANG) This course is designed for PhD students in the field of macroeconomics. To this end, trainings on the academic writing and advanced analysis skills are needed: Firstly, students need to read and discuss several the selected academic papers. By doing so</p>	
--	--	--	--

		<p>students could have more clear idea on the style of academic writing. Secondly, lectures on the advanced topics on numerical methods and computational software will be provided. Last, students need to present their research in the group meetings. This help student understand the way to communicate with other scholars in the international conference.</p> <p>(和訳) マクロ経済学に関連する研究課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、アカデミック・ライティングの能力と分析スキルの修得に向けた指導を行う。まず、いくつかの学術論文を読み込んだうえで議論を重ね、学術論文のスタイルを修得する。次に、数理的手法とコンピュータソフトウェアの高度な手法について指導する。そして、学生間で研究発表を行い、国際学会等での発表を行うことのできるプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>(17 KURO CHUN-HUNG) This course is designed to prepare students for writing Ph.D thesis in the fields of macroeconomics, monetary economics, using time series and macro-econometric methods. Students start to conduct their own research based on the written proposals in Advanced Seminar I. In this course, students are required to thoroughly investigate the related economic theories and the econometric methods. After that, students need to justify the validity of economic theories and econometric methods that they utilize in their research. Besides, writing essays plays an important role in completing this course, and students are required to present their research results regularly. To pass this course, students are expected to have some well-written drafts for their own research. Students are also encouraged to send their research results to certain academic journals for publication.</p> <p>(和訳) マクロ経済学、金融論分野における研究課題について、時系列分析やマクロ計量モデルを用いて研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅰで作成した研究計画に基づき、学生各自の研究を始めていくように指導を開始する。研究に関連する経済理論と計量経済学の手法を慎重に吟味し、手法・理論を特定する。研究の経過・結果を定期的に発表させ、研究論文の作成を指導し、博士論文特別演習Ⅱの終わりまでにいくつかの研究論文の草稿を書きあげるようにしていく。学会誌・学術誌への投稿も促していく。</p> <p>(18 陣内 悠介) 経済理論および計量経済学の手法を用いて開発経済学分野（教育、医療、家計等）の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、同演習Ⅰで作成した研究計画に基づき、演習Ⅰで執筆した論文を拡張する、もしくは博士論文特別演習Ⅱからの新規研究プロジェクトを開始する、という形で博士研究を継続する。理論モデルを構築し、計量経済学的手法を用いてデータ分析し、経済学的な政策含意を導出する。また、博士論文特別演習Ⅱでは、国際学会で研究発表を行い、1編の研究論文が査読付学術誌に投稿出来るように指導を行う。</p>	
--	--	--	--

		<p>(20 伊藤 晴祥)</p> <p>実証分析あるいはファイナンス理論を利用したコーポレートファイナンス、リスクマネジメント、あるいはリアルオプションに関する課題の研究指導を行う。博士論文では、データを利用して仮説検定を行う、実証研究であっても、あるいは、理論モデルを構築し実際の問題を解決するような研究であってもよい。考えられる研究課題としては、M&A 戦略、発展途上国への進出戦略、デリバティブを利用したリスクマネジメント手法が企業価値へ与える影響の検証、非完備市場下でのデリバティブ評価などが上げられる。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱでは、ファイナンス分野での博士論文の第3章までを完成させることを目的とし、実際に研究をスタートさせる。そのために、研究課題を特定する必要がある。そして、研究課題の答えを得るために、いくつかの仮説を立てなければならない。その次に、当該仮説検証のために、関連データを収集し統計分析を行う。最後に、分析結果の解釈を行い、必要に応じてさらに仮説検定を行い、追加的なデータ収集を行う。本演習Ⅱでは、少なくとも1編の研究論文が査読付学術誌に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(公共経営学クラスター)</p> <p>(3 RAJASEKERA JAY RANJITH)</p> <p>This course is designed to prepare for a Ph.D. dissertation in the field of Public Management with a special emphasis on IT/ICT Management.</p> <p>Based on what students achieve in advanced seminar I, the advanced seminar II will guide students to do their independent primary research for collecting data and writing research papers. Students are required to write several chapters or independent research papers for a PhD dissertation. Then, students are guided to polish their research papers and present them to academic conferences to submit them to appropriate academic journals.</p> <p>(和訳)</p> <p>公共経営の分野において、特に情報技術/情報コミュニケーション技術のマネジメント(IT/ITC マネジメント)に関連する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅰでの成果を受けて、博士論文特別演習Ⅱでは、データ収集のためのプライマリ・リサーチ及び研究論文作成の指導を行う。論文を構成するいくつかのチャプターあるいは研究論文を書きあがるように指導し、それらを関連学会や学術誌に投稿・発表するように促していく。</p> <p>(9 KIM JUNG BU)</p> <p>The course is designed to guide students through analytical processes of Ph.D. dissertation writing in the field of public policy.</p> <p>Based on the research design, literature review and collected data, students are to 1) specify analytical methods and strategies, 2) conduct empirical analysis, and 3) write up a preliminary report, addressing the key research questions. To the end of the course, the student is expected to submit a shorter version of the preliminary analytic findings to a relevant journal for publication.</p>	
--	--	---	--

		<p>(和訳) 公共政策に関連する分野の博士論文の指導を行う。 博士論文執筆に必要な分析プロセスを指導していく。 博士論文特別演習Ⅱでは、同演習Ⅰで策定した研究計画、先行研究調査、収集データに基づき、1) 分析の手法を特定し方策を練り、2) 実証分析を行い、3) 重要なりサーチクエスチョンに対する第一次報告を作成する。本演習の終わりまでに、学術誌に投稿可能な分析内容を含む草稿を執筆する。</p> <p>(10 PARK HUN MYOUNG) This course is to help students conduct field research relevant to management and/or policy problems in the public sector and write an academic paper to be submitted to a referred journal. Students are asked to plan field research on the basis of their research proposal. Then students analyze data using the theory and method determined. Finally, students are asked to draft an academic paper for a referred journal.</p> <p>(和訳) 公共部門の経営管理、政策課題に関連する博士論文の指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、フィールド調査の遂行と学術誌に提出する研究論文の執筆を指導する。研究プロポーザルに基づき、実地のフィールド調査を計画、遂行する。次に、研究において使用する理論と手法によりデータを分析する。そして、学術誌に提出する研究論文を執筆する。</p> <p>(19 山田 恭平) 公共政策学と政治学の理論および手法を用いて、公共政策の課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅱでは、まず、同演習Ⅰで実施された先行研究の調査を基に、分析に妥当な理論モデルを構築して、検証可能な仮説を導出する。次に、理論モデルから導かれた仮説をもとに実証分析を実施する。理論および実証分析においては、社会科学的思考・方法論を重視した指導を行う。特別演習Ⅱでは、少なくとも1編の研究論文を査読付学術誌に提出できるように指導を行う。</p> <p>(国際関係学クラスター)</p> <p>(5 信田 智人) 本演習は国際関係論の博士論文の準備のために研究指導を行うことを目的としている。 博士論文特別演習Ⅱでは、同演習Ⅰで実施された先行研究の調査を基に、既存研究のレビューを踏まえて、博士論文のアウトラインを構築することを目指すよう指導する。</p> <p>(6 COORAY NAWALAGE SENEVIRATNE) Advanced Seminars are generally designed to provide doctoral candidates who are enrolled in International Relations cluster or program with rigorous and broad training to acquire necessary knowledge and skills in International Political Economy (IPE). IPE covers the political perspectives of international development, trade, technology and security.</p>	
--	--	---	--

		<p>In Advanced Seminar II, students are supposed to continue their rigorous search activities leading to one or two journal articles relating to the topic identified during Advanced Seminar I. During this seminar students are further exposed to advanced research and research methods.</p> <p>(和訳) 国際関係学、特に国際開発、貿易、技術、セキュリティなどの政治的パースペクティブを扱う国際政治経済学に関連する研究課題の指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱでは、同演習Ⅰで特定した研究課題に関連する研究論文を執筆し、1つ、あるいは2つの学術誌に投稿できるような論文を仕上げる。さらに、より高度な研究とその分析方法について理解を深める。</p> <p>(8 MAUNG AUNG MYOE) This course is designed to prepare for a PhD thesis in the field of International Relations by using IR theories and conceptual frameworks.</p> <p>This course is designed for the PhD candidate to write several chapters of his/her thesis in the field of International Relations. The candidate will start to conduct a research, following the research plan written in the previous year. To do so, firstly, the candidate develops a theoretical or conceptual framework for the proposed research topic. Next, he/she will conduct empirical analysis and interpretation of data within the context of the theoretical/analytical framework. The PhD candidate is expected to complete one or two chapter(s)/paper(s) and submit at least one paper to an appropriate refereed journal.</p> <p>(和訳) 国際関係学に関する研究課題について、国際関係理論や概念的フレームワークを用いて研究指導を行う。</p> <p>このコースでは、学位論文のいくつかの章を書きあげるように指導する。学生は、1年次に作成した研究計画をもとに2年次の研究活動を始める。研究課題に対し理論的または概念的フレームワークを発展させ、そのフレームワークの枠内で実証分析やデータ解釈を行う。少なくとも1～2章または1～2編の研究論文をしあげ、少なくとも1編の研究論文を学術誌に投稿できるように指導を行う。</p> <p>(12 佐治 幹英) 国際関係学の分野において政治理論の諸問題を研究題材としている学生を対象に研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱでは、国際関係学の分野で政治理論を研究題材とする博士論文の複数の章を完成することを目指す。まず、博士論文特別演習Ⅰで実施された先行研究の調査を基に、そうした研究との関係で研究題材についての自身の立場を明確にする。どの哲学的立場を支持し使い、どの哲学的立場を批判するのかを同定したうえで、学生は自分の議論を構築することを始めるよう指導する。博士論文特別演習Ⅰにも増して哲学的テキストの精読が要求されるため、適切な読解ができることを重視した指導を行う。博士論文特別演習Ⅱでは、少なくとも1つの章が査読付学術誌論文として学術誌に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(16 熊谷 奈緒子)</p>	
--	--	--	--

		<p>国際関係学の中でも特に安全保障と外交に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行うことを目的としている。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱでは、研究計画書に沿って論文執筆を指導し、中間報告の準備をし、基本的に1編以上の研究論文を仕上げ、学術雑誌に投稿する準備をすることを目指す。特に研究の実践において、学生が様々な形で直面するであろう資料収集の予想せざる困難に対して、どう対処するかについても適宜指導を行う。博士論文特別演習Ⅱでは基本的に一对一の個人指導を行う。必要に応じて初回と途中と最後にジョイントセッションを行う。</p>	
<p>博士論文特別演習Ⅲ</p>		<p>(概要)</p> <p>経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは、(原則として)3編の学術論文で構成される学位論文の完成を目指す。</p> <p>(経済学クラスター)</p> <p>(1 柿中 真)</p> <p>経済理論及び計量経済学の手法を用いて国際経済の課題の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは、基本的に博士論文特別演習Ⅱと同様に、理論面及び実証面からの経済学的考察を重視した上で学術論文作成に取り組むよう指導する。博士論文特別演習Ⅲでは、3編の学術論文で構成される学位論文の完成を目指す。また、少なくとも1編の研究論文が査読付学術誌に受理済となるように指導を行う。</p> <p>(2 渡辺 慎一)</p> <p>経済理論及び計量経済学の手法を用いて経済発展に伴う課題の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは、基本的に博士論文特別演習Ⅱと同様に、理論面及び実証面からの経済学的考察を重視した上で学術論文作成に取り組むよう指導する。</p> <p>(4 中村 治)</p> <p>経済理論及び計量モデル分析、動学的シナリオ分析、等の計量経済学の手法を用いて、経済成長ないし経済発展、および国際貿易・投資、等の課題の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲにおいて、博士論文特別演習Ⅱと同様、初年度において議論し、固めた研究計画をベースに経済学分野の博士論文の作成を基本的に続ける。この中で、実体経済をとらえ、それを理論的、実証的に整合性を持った形で説明できるよう、理論モデルのフレームワークを発展、進化させることも博士論文として行われる。さらに、実証研究においては、納得のいく新たな研究結果さらにそれによる政策的含意が得られるまで実証分析が続けられる。論文作成の最終的段階として、基本的に3編の学術論文(内1編は査読付ジャーナルに受理済み)をベースとした博士論文を3年次中に完成させる。</p> <p>(7 加藤 竜太)</p> <p>財政学に関係のある分野の研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱ同様、Ⅲにおいても博士論文を構成する章、あるいは独立な研究論文の改善に時間が費や</p>	

		<p>される。少なくとも3つの学術論文、さらにそのうち少なくとも1つは適当な学術雑誌に掲載されることが要求されるので、引き続き指導教員との議論やフィードバックを通して論文の質向上を要求される。</p> <p>(11 高橋 新吾) 経済理論及び計量経済学の手法を用いて労働経済学・人事制度の経済学の実証研究の指導を行う。 博士論文特別演習Ⅲでは、基本的に博士論文特別演習Ⅱと同様、論文の課題の特定、使用データの決定、及び推定を行う。本演習Ⅲにおいても、少なくとも1編の研究論文が査読付学術誌に提出出来るように指導を行う。</p> <p>(14 LIN CHING YANG) This course is designed for PhD. Students planning to conduct research in the field of macroeconomics. At this stage, students are required to finish another two academic papers based on the research proposals developed in the first and second year. Besides, students need to understand the research future trend in their field to prepare for the plan for their career. To this end, advanced topics of macroeconomics and selected paper will be read and discuss together in the class. Moreover, there will be more individual sections with each student to discuss about the development and revisions on their PhD dissertation.</p> <p>(和訳) マクロ経済学に関連する研究課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅲでは、同演習Ⅰ・Ⅱで発展させた研究計画に沿って、学位論文を構成する研究論文3編の完成を目指す。加えて、進路や将来の研究を見据え、専門領域のトレンドを理解していくよう、マクロ経済学の高度な課題について、学術論文の講読やディスカッションを行っていく。博士学位論文の発展・修正に向けて、学生との個別ミーティングを重ねていく。</p> <p>(17 KUO CHUN-HUNG) This course is designed to prepare students for writing Ph.D thesis in the fields of macroeconomics, monetary economics, using time series and macro-econometric methods. The main task of this course is to help student sharpen their dissertation to a professional level. Similar to Advanced Seminar II, students need to justify the validity of economic theories and econometric methods for their research topics. More importantly, by writing the required papers, students need to demonstrate that they are indeed experts in their research topics. Besides, students have to present their progress regularly in this course. In the end of this course, students are expected to complete the three required essays.</p> <p>(和訳) マクロ経済学、金融論分野における研究課題について、時系列分析やマクロ計量モデルを用いて研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅲでは、博士学位に相応しい学術性・専門性を備えた博士論文を完成できるように指導する。同演習Ⅱの成果を基に、研究課題に適應する経済理論と計量経済学の手法の有効性を立証していく。当該研究課題における専門知識の証となるような論文の執筆を指導する。定期的に進捗状況を発表させ、この演習の終</p>	
--	--	---	--

		<p>わりまでには学位論文の構成に必要な3編の研究論文を完成させる。</p> <p>(18 陣内 悠介) 経済理論および計量経済学的手法を用いて開発経済学分野（教育、医療、家計等）の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅲでは、研究計画に基づき研究を進める。博士論文特別演習Ⅲを通じて合計3編の学術論文を完成させ、博士論文の研究トピックを明示するために、論文同士の関連性についても言及する。また、博士論文特別演習Ⅲでは、国際学会で研究発表を行い、かつ研究論文が査読付学術誌に投稿出来るように指導を行う。</p> <p>(20 伊藤 晴祥) 実証分析あるいはファイナンス理論を利用したコーポレートファイナンス、リスクマネジメント、あるいはリアルオプションに関する課題の研究指導を行う。博士論文では、データを利用して仮説検定を行う、実証研究であっても、あるいは、理論モデルを構築し実際の問題を解決するような研究であってもよい。考えられる研究課題としては、M&A 戦略、発展途上国への進出戦略、デリバティブを利用したリスクマネジメント手法が企業価値へ与える影響の検証、非完備市場下でのデリバティブ評価などが上げられる。 博士論文特別演習Ⅲでは、基本的に博士論文特別演習Ⅱと同様に、研究課題解決のための仮説検定を継続して行う。研究課題における仮説検定の課程では、検定結果を支持するために、新たなデータ収集と統計分析を繰り返して行う必要がある。3本の論文が完成し、2本以上の論文が査読誌に掲載が決定していることが求められる。</p> <p>(公共経営学クラスター) (3 RAJASEKERA JAY RANJITH) This course is designed to prepare for a Ph.D. dissertation in the field of Public Management with a special emphasis on IT/ICT Management. In the Advanced Seminar III, students continue to conduct a research from the theoretical and empirical perspectives, following the research plan. To do so, students identify analytical models capturing the research topic and derive several management implications from the theoretical perspective. It is expected that three academic papers will be completed and at least one paper will be accepted for publication to an appropriate refereed journal.</p> <p>(和訳) 公共経営の分野において、特に情報技術/情報コミュニケーション技術のマネジメント(IT/ITC マネジメント)に関連する研究課題について研究指導を行う。 特別演習Ⅲでは、研究計画に基づき理論面・実証面から行うリサーチを継続的に指導する。研究課題を分析するためのモデルを特定し、主に理論面からマネジメント上の含意を導出していく。この段階で、少なくとも1編の学術論文が学術誌に受理されたうえで、3編の研究論文からなる博士学位論文が完成することを目指す。</p> <p>(9 KIM JUNG BU) This course is designed to guide the student to complete</p>	
--	--	---	--

		<p>Ph.D. dissertation in the field of public policy. Essentially, the student is expected to complete his or her data analysis and interpret the results in close reference to the original research questions and the literature review. He or she is also expected to carefully assess the implications of the analytical findings for the literature as well as for the practitioners and policy-makers. While detailing on these, the student is also expected to have at least one manuscript accepted by a relevant refereed journal.</p> <p>(和訳) 公共政策分野の博士論文の指導を行う。 博士論文完成に向けた指導を行う。肝要なのは、リサーチクエスションに立脚したデータの解析と先行研究調査を完了させることである。研究論文としてだけでなく、実務や政策立案にも生かしていけるよう、分析結果の評価・解釈を注意深く行う。博士論文をしあげていくとともに、研究論文の少なくとも1編が査読付学術誌へ掲載受理されることが望まれる。</p> <p>(10 PARK HUN MYOUNG) This course is to help students finalize an academic paper relevant to management and/or policy problems in the public sector and then complete their dissertation. Students are expected to finish a paper in accordance with professional standards in academia and then submit it to a referred journal. Next students expand this experience to write their dissertation. Students are asked to check their research question, scope, theory and method, data, data analysis, and interpretation of the result in order for them to make sure logical and systematic structure of their dissertation.</p> <p>(和訳) 公共部門の経営管理、政策課題に関連する博士論文の指導を行う。 学術誌に投稿する研究論文と共に、博士論文を完成させるための指導を行う。専門的・学術的で基準に準拠した研究論文執筆し、査読付き国際学術誌に投稿するための指導を行う。学生は、学術誌の厳しい基準に合致する研究能力・論文執筆能力を身につけ、博士論文の完成に発展させていく。研究課題、適用範囲、理論と方法を再確認し、データとデータ分析結果を検証し、博士論文の論理的体系的構造の確証作業を指導していく。</p> <p>(19 山田 恭平) 公共政策学と政治学の理論および手法を用いて、公共政策の課題の研究指導を行う。 博士論文特別演習Ⅲでは、基本的に博士論文特別演習Ⅱと同様に、理論面及び実証面からの公共政策学および政治学的考察を重視した上で学術論文作成に取り組むよう指導する。</p> <p>(国際関係学クラスター)</p> <p>(5 信田 智人) 本演習は国際関係論の博士論文の準備のために研究指導を行うことを目的としている。 博士論文特別演習Ⅲでは、同演習Ⅱで構築したアウトラインに沿って、研究調査を進めていく。選択したトピックを自ら選んだ分析の枠組みを使って分析し、博士論</p>	
--	--	--	--

		<p>文の完成を目指すよう指導する。</p> <p>(6 COORAY NAWALAGE SENEVIRATNE)</p> <p>Advanced Seminars are generally designed to provide doctoral candidates who are enrolled in International Relations cluster or program with rigorous and broad training to acquire necessary knowledge and skills in International Political Economy (IPE). IPE covers the political perspectives of international development, trade, technology and security.</p> <p>Having completed Advanced Seminar I and II, in this Advanced Seminar III an attempt is made to guide students to complete their dissertation. By now they are supposed to have published or about to complete at least 2-3 articles. Students were guided to write these papers assuming they would be able to put those pieces together and finalize the thesis.</p> <p>(和訳)</p> <p>国際関係学、特に国際開発、貿易、技術、セキュリティなどの政治的パースペクティブを扱う国際政治経済学に関連する研究課題の指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは、博士論文の完成に向けて研究指導を行う。論文完成までに2～3編の研究論文を執筆し出版されることを目指して指導を進め、それらの研究論文をまとめることにより最終的に博士論文が完成するように指導していく。</p> <p>(8 MAUNG AUNG MYOE)</p> <p>This course is designed to prepare for a PhD thesis in the field of International Relations by using IR theories and conceptual frameworks.</p> <p>Similar to Advanced Seminar II, the candidate continue to conduct a research from the theoretical and empirical perspectives, following the research plan. The candidate will continue to engage in research activities. It is expected that all chapters of the thesis will be completed and at least one paper will be accepted for publication in an appropriate refereed journal.</p> <p>(和訳)</p> <p>国際関係学に関する研究課題について、国際関係理論や概念的フレームワークを用いて研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅱと同様に、研究計画に沿って、理論面及び実証面から、研究を継続的に指導する。博士論文特別演習Ⅲでは、学位論文のすべての章が完成し、章を構成する研究論文1編が学術誌に受理されるように指導を行う。</p> <p>(12 佐治 幹英)</p> <p>国際関係学の分野において政治理論の諸問題を研究題材としている学生を対象に研究指導を行う。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは、国際関係学で政治理論を研究題材とする博士論文の完成を目指す。博士論文特別演習Ⅱと同様に、自身の哲学的議論の構築を継続する。そうするなかで、その議論が論理的に整合であるか、論証の道筋のなかで欠けている点がないか、それほど自明ではない前提を自明視していないか、等を注意深く吟味するよう指導を行う。博士論文特別演習Ⅲでは、複数の章から構成される学位論文の完成を目指す。また、少なくとも1つの章が研究論文として査読付学術誌に受理済となるように指導を行う。</p>	
--	--	---	--

		<p>(16 熊谷 奈緒子)</p> <p>国際関係学の中でも特に安全保障と外交に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行うことを目的としている。</p> <p>博士論文特別演習Ⅲでは学位論文の完成を目指す。本演習は基本的に個人指導を学生の原稿の進み具合に基づいて行う。追加的に必要な研究の指導、最終的な議論の精緻化、事実関係の確認、また参考文献や脚注などのスタイルに関する指導を行う。</p>	
--	--	---	--